## 一般質問

- ○町民の高齢化率と今後の推移はどのようになっているか
- ○高齢者医療、福祉、健康対策はどのような計画か
- ○特別養護老人ホームなどの新増設の計画はあるのか
- ○町の医療、福祉の総合センター設置の計画はあるのか
- ○町長の選挙公約の内容と実態をどう総括しているか
- ○駅東開発の今後の計画を問う



今泉文克議員

**質問**　わが町の高齢化率と今後の推移はどの様になっているか。

**福祉こども課長**　平成29年10月1日現在、65歳以上の人口は3千3百17人で、26．1％となっております。8年後の平成37年には約30％になると推計されます。

**質問**　町の高齢者医療、福祉、健康等の対策はどの様に計画されているか。

**健康環境課長**　平成27年3月に「鏡石町健康増進計画・食育推進計画」を、また、高齢者の福祉対策については、「鏡石町高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」を策定し、高齢者が住み慣れた地域で、安心して暮らし続けられる地域社会を実現するため各種施策を行っております。



**質問**　介護保険事業計画で、入所待機者の人数拡大が予想されているが、町及び地域の新増設計画をすべきと思うが対応策を問う。

**福祉こども課長**　今年4月現在の県内特別養護老人ホームへの鏡石町民の待機者数は、県の調査によると53名であります。今後の対策としては、現在策定中の第7期介護保険事業計画で検討しているところですが、民間の力を活用しながら、サービス付高齢者住宅等の整備を行い待機者の対応をしていきたいと考えております。

**質問**　高齢化の進行にともない、町の医療、福祉の総合センター施設の重要性を感じるが、早急な設置を考えているのかを問う。

**健康環境課長**　町の医療、福祉の総合センター施設の建設については、復興まちづくり計画に位置づけされており、今後、具体的な導入機能等について類似施設を参考にしながら、財源等も含め、関係機関や関係課と連携を図りながら建設計画に向けて協議していきたいと考えております。

**質問**　遠藤町長在任7年半を経過しようとしており、当初の選挙公約の内容と実態をどの様に総括しているか。

**町長**　「駅に降りてみたい、歩いてみたい、住んでみたい」まちづくりを目指し、現在もまちづくりを進めております。7年半の総括としましては、震災からの復興が主な事業にもなりますが、財政の健全化では実質公債費比率が19．6％から10．0％と9．6％改善されました。また、教育面では、中学校の大規模改修、鳥見山公園多目的広場の人口芝改修、福祉面では児童ふれあい交流館、ハッピーイートプログラム事業、観光面では田んぼアート事業の実施、地方創生事業を活用した「かんかんてらす」事業など、概ね公約どおり取り組むことができたと思います。

**質問**　駅東第1土地区画整理事業の財源の確保の見通し、事業の遅延などあるが進行計画の内容を問う。

**都市建設課長**　財源については、道路工事においては国庫補助金の確保が必要であり、社会資本整備総合交付金での対応が非常に厳しい状況にあります。造成工事には、保留地処分金が財源となりますので、計画的な販売に努め、保留地処分金を基金に積み立て、財源確保をしながら工事を進めて行きたいと考えております。



住宅が次々と建築されている
駅東第１土地区画整理事業（第１工区）



## 一般質問

- ○昨年の衆議院議員選挙の結果を受け町長は今後の政治活動にどう取り組むのか
- ○河川災害対策と防災無線の難聴地域解消について問う
- ○鏡石町における地方行財政について問う
- ○特産品開発について問う



吉田孝司議員

**質問**　第48回衆議院議員選挙の結果に鑑み、町長して今後の政治活動をいかに取り組むのか。

**町長**　衆議院議員選挙においては、自由民主党を中心とした与党が圧倒的多数の議席を獲得した結果となりました。今後も、地元選出議員が与党か野党かに関わらず要望活動を進めて参りたいと思います。

**質問**　まちづくりや町内活性化に資するべき施策はあるか。

**総務課長**　平成26年度から地方創生事業として「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に位置づけられた事業を実施しており、当町においては、お出かけ支援事業、田んぼアートおもてなし事業、また今年度実施している鏡石まちの駅設置事業に取り組んでおります。

今後、まちづくりや町内活性化に繋がるような事業があれば積極的に取り組んで参りたいと思います。

**質問**　河川災害対策、河川管理の在り方に対する町の姿勢を問う。

**総務課長**　重要水防区域に定めている阿武隈川を中心に治水施設の整備や避難情報等の適切な発信基準の整備などの対策を行っているところです。

河川管理の在り方については、一級河川に指定されている河川は、原則、国の管理となります。しかし、阿武隈川水系の乙字ケ滝から上流は、指定区間として国から県に管理委託されているため、本町を流れる河川の管理は県が行っておりますので、県に対し適切な管理をお願いして参ります。

**質問**　防災行政無線の難聴地域を把握し、難聴地域は解消されたのか。

**総務課長**　防災行政無線の屋外子局からの放送が聞き取りにくい世帯に対しては、家庭内に設置する個別受信機を貸出しております。また、今年度から屋外受信アンテナ設置工事を行っており難聴地域の解消に努めております。

**質問**　今年度末における町の負債状況を問う。

**総務課長**　現在の地方債残高は普通会計（一般会計・駅東特会）で50億7，559万円、特別会計（公共下水・農集排特会）で36億3，727万1千円、上水道事業で15億3，061万3千円で合計では、102億4，347万3千円となっております。今年度末の地方残高の見込額は、合計で対前年比1億2，944万2千円増の107億4，300万円になると見込んでおります。

**質問**　歳出を減らすための施策をどう考えるか。

**総務課長**　各種事業の実施にあたっては、①財源の確保が図られる事業を優先する。②事業の費用対効果や実施後の維持管理経費を含めた総合的検討に基づき判断する。③繰上償還による公債費の圧縮を図る。④受益者負担の原則に基づき、負担金・分担金・使用料の適切な負担を受益者に求め、それぞれの運営費に充当するなどにより歳出削減に取り組んで参ります。

**質問**　特産品の品目、販路、採算性を問う。

**産業課長**　町の基幹産業である農産物としては、特別栽培米「牧場のしずく」をはじめとした米、全国的ブランドに岩瀬キュウリ、イチゴ、リンゴ、桃、梨などがあり、「鏡の雫」や岩瀬牧場のヨーグルトなどの加工品もあります。

米価の動向やその経営規模により採算を確保することは難しい状況にありますが、キュウリをはじめとする園芸作物は、関東、大阪などの大都市圏の青果市場へ出荷され、また、果樹やイチゴは農家の直販が多くなされ採算性が高いと思われます。

ふるさと納税の返礼品として「牧場のしずく」「鏡の雫」リンゴ、梨、桃、イチゴについては、大変人気の高い特産品なので、引き続き、ＰＲに努めて参ります。